

今週の為替相場見通し(2020年5月25日)

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	(円)		107.05 ~ 108.08	107.60	106.50 ~ 108.00
ユーロ	(ドル)		1.0800 ~ 1.1008	1.0904	1.0800 ~ 1.1100
(1ユーロ=)	(円)		115.80 ~ 118.53	117.35	116.00 ~ 119.00
英ポンド	(ドル)		1.2075 ~ 1.2296	1.2170	1.2100 ~ 1.2300
(1英ポンド=)	(円)	*	129.32 ~ 132.51	130.98	130.00 ~ 132.80
豪ドル	(ドル)		0.6411 ~ 0.6616	0.6536	0.6350 ~ 0.6650
(1豪ドル=)	(円)	*	68.66 ~ 71.09	70.36	67.50 ~ 71.50

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

金融市場部 グローバルFIチーム 上地 遼

(1)今週の予想レンジ: 106.50 ~ 108.00 円

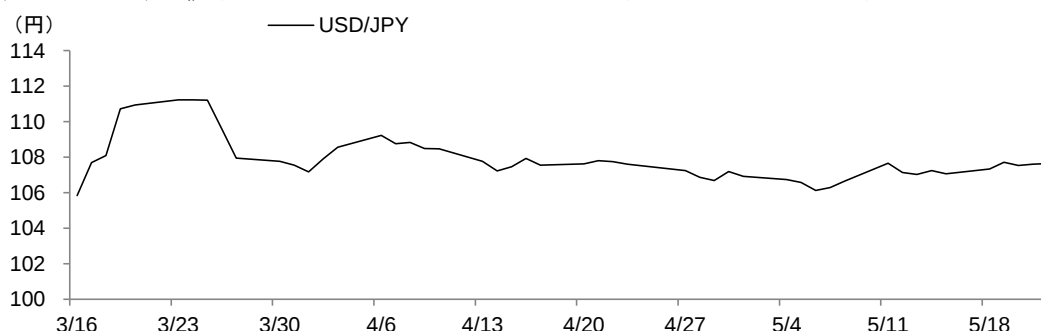
(2)ポイント【先週までの回顧と今週の見通し】

週初の18日はドル/円は107.22円で東京オープン。新型コロナウイルスの感染をめぐった米中対立の激化懸念から、東京時間に週安値の107.05円をつけた。しかしNY時間に米モデルナ社が新型コロナウイルスのワクチン開発においてポジティブな成果が得られたと報道されると、ドル/円は107円台半ばまで上昇した。結局107.30円台でクローズした。19日は、日銀が22日に中小企業などへの資金繰り支援制度や金融政策運営について臨時会合を開くことを好感し、海外時間にドル/円は大きく上昇。週高値の108.08円をつけた。しかし、米モデルナ社の新型コロナウイルスのワクチン開発において昨日とは一転しネガティブな報道が流れると、ダウをはじめリスク性資産は下落し、ドル/円も下落。結局107.70円台でクローズした。20日は、107.80円台でオープン。東京オープン直後はドル/円は堅調推移となり、107.99円まで上昇するも108円ちょうど付近では上値の重さが意識されじりじりと下落した。海外時間に入ると、米株式相場や原油先物相場の上昇に加え欧州景気に対する過度の不透明感が後退し、主要国通貨に対しドルが売られる展開にドル/円は107.30円台まで下落した。結局107.50円台後半でクローズした。21日は、明日に日銀の政策決定会合や中国の全人代を控え、様子見ムード。107.80円台まで上昇する場面もあったが、107.60円台でクローズした。22日は、仲値にかけてドル買いがすすみ107.70円台後半まで上昇した。日銀の臨時金融政策決定会合ではサプライズ材料はなく、相場への影響は限定的だった。中国の全人代では今年のGDP目標が設定されなかったことで原油相場は急落。香港への圧力を強めることも計画していることからリスク回避の動きに107.30円台まで下落した。しかし、新型コロナウイルスのワクチンについて、ポジティブな報道がなされると107.60円台まで上昇。連休を控え取引が薄いま、107.60円で越週した。

今週のドル/円は上値の重い展開を予想。新型コロナウイルスのワクチンの進展で出口も見え始めた。欧州やオセアニア地域の経済活動の再開も期待され、主要国通貨の買い・ドルの売りも想定されることから上値は重いだろう。さらに、水を差すのは新型コロナウイルスの対応を巡る米中の対立だ。両国首脳の発言のたび市場がネガティブに反応することは想像に難くない。20日のように108円ちょうど付近を上値と意識した、107円台前半での推移を予想する。主な経済指標は米新規失業保険申請件数、米GDP(1Q年率・前期比)、中国5月製造業・非製造業PMIが挙げられる。

(3)先週までの相場の推移

先週(5/18~5/22)の値動き: 安値 107.05 円 高値 108.08 円 終値 107.60 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

市場営業部 為替営業第二チーム 尾身 友花

(1) 今週の予想レンジ: 1.0800 ~ 1.1100 116.00 ~ 119.00 円

(2) ポイント【先週までの回顧と今週の見通し】

先週のユーロ/ドル相場は週後半に高値をつける展開。週初18日、1.08台前半でオープンしたユーロ/ドルは、新型コロナウイルスのワクチン開発への期待からリスクオンのドル売りが強まった。その後、独仏の首相がEU復興基金設立を支持したことが好感され、一時1.09台前半まで上昇した。19日、ユーロ/ドルは前日の流れを受けて底堅く推移し、一時1.09台後半まで上昇したものの、その後は利益確定の売りが入って上値が重い推移が続いた。20日は、ドル売りの流れが強まり、ユーロ/ドルはじりじりと値を上げる展開。米国での新型コロナウイルスのワクチン関連の新たなヘッドラインが好感され、その後もリスクオンの展開からドルが売られ、後半にかけて1.10付近まで上昇した。21日は、軟調な米国経済指標の結果を受けて、一時週高値の1.1008まで上昇した。その後、トランプ米大統領が対中政策に関する報告書を議会宛に提出したことでリスクオフムードが強まると、1.09台半ばまで反落した。22日は1.90台半ばから一時1.08台後半まで値を下げ、1.0904で越週した。

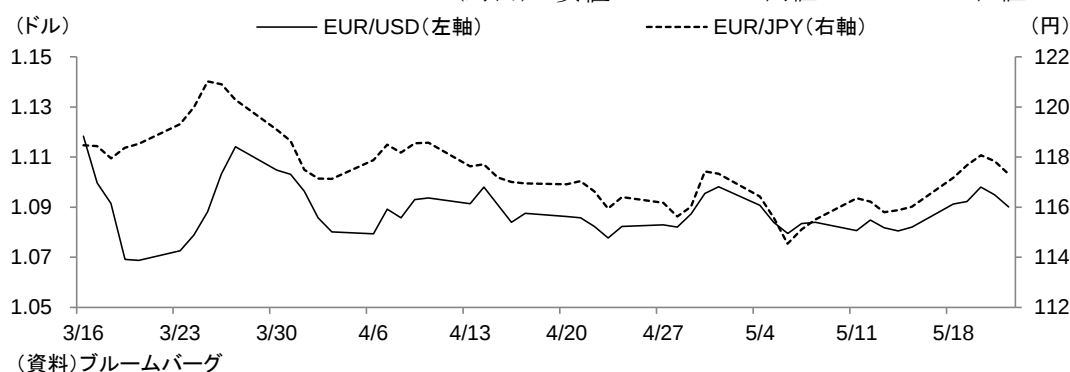
今週のユーロ相場は軟調な推移を予想している。また、対円ではドル/円相場が底堅い値動きとなっており、比較的堅調な推移を予想している。29日(金)に予定されている欧州の5月CPIでは、ブルームバーグの事前予想は前年比+0.1%としており、引き続きデフレーション圧力の強まりが確認できそう。ECBのレポートではマイナス金利の有効性を主張する内容なども見られており、金融政策面の面からもユーロ安がサポートされると考えている。但し、ロックダウン解除による経済活動への期待などからリスクセンチメントが改善している中、大きなユーロ安が進行する展開は予想していない。新型コロナウイルス最悪期のユーロ安からの値戻しの中で軟調な相場展開となるのではないだろうか。

(3) 先週までの相場の推移

先週(5/18~5/22)の値動き:

(対ドル) 安値 1.0800 高値 1.1008 終値 1.0904

(対円) 安値 115.80 高値 118.53 終値 117.35



3. 英ポンド

欧州資金部 本多 秀俊

(1) 今週の予想レンジ: 1.2100 ~ 1.2300 130.00 ~ 132.80 円

(2) ポイント【先週末までの回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は、小動き。対ドル、対円では予想外に堅調推移が先行したものの、週央に掛けて頭打ちとなり、週後半は軟調に転じた。対ユーロでは、逆に、どちらかと言えば軟調推移を支配的としたが、週引け前には反発した。英固有の要因では、マイナス政策金利導入の是非に関する議論が、英中銀金融政策委員会のメンバーから相次いで聞かれたのが目を引いた。16日にホールデン委員、18日にテンレイロ委員、20日にベイリー総裁(14日の発言の繰り返し)、22日にラムズデン副総裁らが、相次いでマイナス金利導入の可能性について言及した。ただし、発言のトーンに若干の濃淡はあったものの、いずれも「可能性を除外する必要はない」という内容。ポンドが売られた時に材料視されたぐらいで、実際の影響ははっきりとは読み取れなかった。英経済指標では、19日に発表された英1~3月失業率(ILO基準)の下振れ(予想外に低かった)や、22日の記録的な英4月財政赤字などが目を引いたが、コロナ禍という特殊な状況の中で、明確な方向感を打ち出すまでの反応は、やはり読み取れなかった。対ドル、対円でのポンド堅調の先行に敢えて理由を探すなら、18日以降の、株高、原油高を挙げることはできただろう。株高は新型コロナウイルスに対するワクチン開発への期待感が、原油は需要回復に対する期待に加えて、先の減産合意の順調な履行や、湾岸諸国による自主的追加減産、米原油在庫の減少(採算割れに伴う産出量の減少)などが材料視された。こうした動きは、ドル需要逼迫に対する警戒感の緩和(ドル安)や、リスク意欲の回復(円安)などを招いたものと考えられた。また、ユーロに対するポンド軟調が支配的になったのは、18日に突然発表された独仏による欧州復興ファンド(5,000億ユーロ)設立の報が、欧州景気回復に対する期待を強めたことで、ユーロを押し上げた結果と考えることができた。

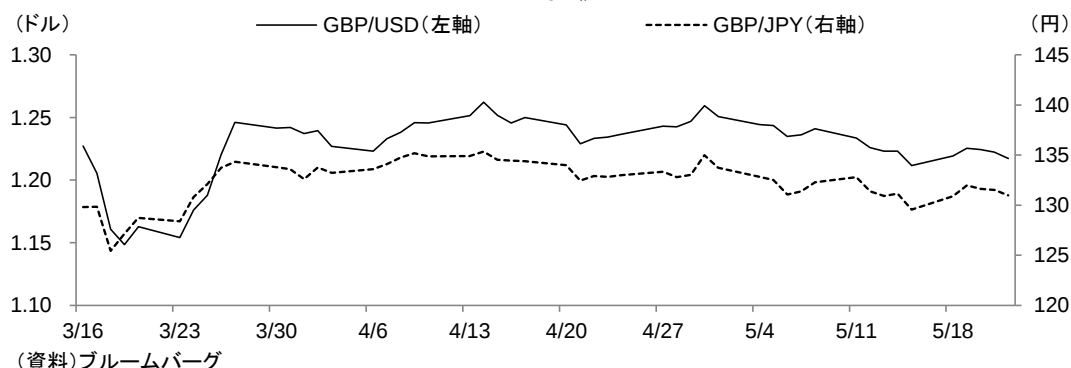
今週の英ポンド相場は、現行水準における、方向感を欠いた膠着の継続を予想。22日、英政府は、英国民を含め、国外(アイルランドを除く)からの来訪者全員に、来月から、原則(医療従事者などを除く)14日間の隔離を義務付ける方針を発表した(現在の日本と同様の政策)。実質的に国境を閉ざしたに等しく、大陸欧州で国境開放時期の模索が始まったのとは、逆行する動きとなる。航空業界、旅行業界に対する大打撃は避けられないだろうし、単月としては前代未聞の巨額の財政赤字を計上して、なお、英財政は更に大きく悪化する可能性しか見えてこない。こうした慎重な姿勢は、自らがCOVID-19に罹患、ICUでの治療を体験したジョンソン首相の意向が大きく反映されたものと考えられる。コロナ禍への対応が対照的だからと言って、それに対し通貨市場がどのような反応を見せるかは判断が難しい。復興ファンドの設立が決まり、積極的に経済活動再開の道を探る大陸欧州(ユーロ)が買いで、経済活動再開に慎重で、徒に財政赤字を膨らめる英(ポンド)が売りなどと、単純には判断できないだろう。コロナ対応への評価は、今後想定される第2波、第3波への影響まで含めてすべきで、拙速な判断は禁物と思われるが、評価が難しいということは、それに甲乙をつけるのも難しいことを意味する。およそ相場と名のつくもので、最も先を読んで反応する為替相場においても、通貨同士の優劣を見定めるのが難しいのは変わらないのではないかな。コロナ禍以前にも、市場における優劣とは、絶対的なものではなく、あくまでも市場が形成した合意上の優劣に過ぎなかったわけだが、現在の市場は、そうした合意を形成する意志自体放棄してしまっているように見える。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(5/18~5/22)の値動き:

(対ドル) 安値 1.2075 高値 1.2296 終値 1.2170

(対円) 安値 129.32 高値 132.51 終値 130.98



4. 豪ドル

市場営業部 為替営業第一チーム 逸見 久貴

(1) 今週の予想レンジ: 0.6350 ~ 0.6650 67.50 ~ 71.50 円

(2) ポイント【先週までの回顧と今週の見通し】

先週の豪ドル相場は、0.6427レベルでオープン。新型コロナウイルスワクチンの臨床試験で有望な初期結果が出たとの発表を受け、市場センチメントは改善したことで、原油、株、米債利回り等が上昇した。豪ドルはアジア時間には0.64台前半で推移していたが、欧州株が大きく上昇する格好でギャップオープンすると豪ドルもフォローする形で0.64後半へ。続いて米株もギャップオープンし、豪ドルはさらに上昇。NY引けでは0.6530手前まで上昇した。翌19日、豪輸出企業の実需フローや複数ファンドが買いに走り、0.6550近辺まで上昇。発表されたRBA5月理事会議事要旨ではRBAの政策パッケージが予想通り機能しているとの認識が示されたほか、必要なら債券購入の規模を拡大する用意があるとの立場でも一致したことが明らかになったが市場の反応は限定的となった。欧州時間に豪ドルが4月高値0.6570を上抜けたがウィルスワクチンの臨床試験の初期結果が懐疑的であるとの報道を受け、米株が下落すると、豪ドルは0.6530近辺まで下落した。週央20日は欧州時間からNY時間にかけてはリスクオンとなり、ドルが軟調に推移する裏で豪ドルはストップを巻き込みながら2カ月ぶりの0.66台にのせた。米上院で一部中国企業の米上場禁止につながる法案が可決され、米中対立の悪化が懸念された為、引けにかけては若干値を戻す展開。21日はシドニー早朝、トランプ大統領が中国に対し行った批判的ツイッターで米中関係悪化懸念が再燃。リスクオフの流れから豪ドルは下落。ロウRBA総裁はマイナス金利検討に対して否定はしたもの、「先行きは異例なほど不透明」、「RBAは債券買い入れ規模を拡大する用意がある」と発言し、更なる緩和を示唆したことも嫌気され、豪ドルは0.66手前からストップをトリガーしながら一時0.6550近辺まで下落。欧州時間を通しては再度0.66手前まで戻したものの、中国で始まる全人代で香港の治安維持の法整備を話し合うことが意識されると、豪ドルは再び0.65台後半まで値を下げた。週末は、米中緊張の警戒から米ドル買いが進行、豪ドルは売りが優勢となり一時0.65台前半まで下落。北京にて開幕された全人代で、香港に適用する新たな国家安全法に関する審議が開始された。香港メディアによると、本法案は全人代最終日の28日に採決され、8月に施行される見込みとのこと。これを受けて米国が強く反発しており、リスク回避の動きとなると、豪ドルはジリ安の展開。0.6536で越週した。

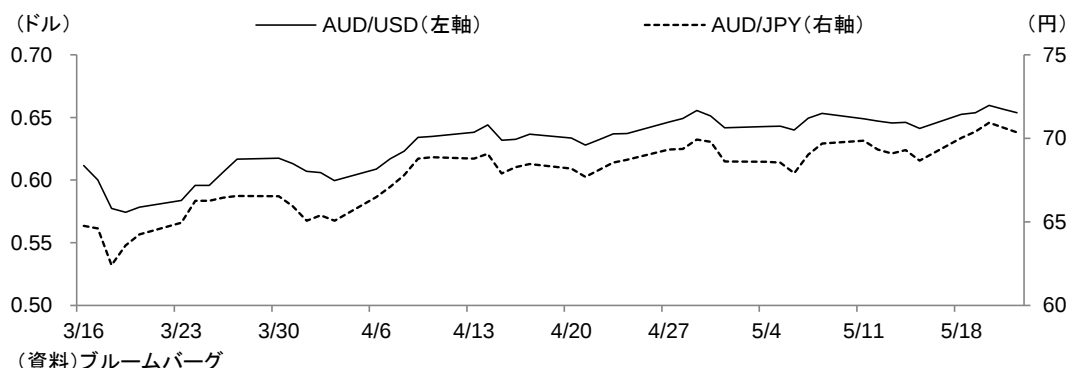
今週の豪ドル相場は軟調地合いを想定する。RBA5月理事会議事要旨では、政策パッケージに対し一定の効果が現れているとしながらも、必要であれば債券購入の規模を拡大する姿勢を見せている。RBAロウ総裁からは、今年のGDPの縮小幅は10%、失業率についても今年上半期までに10%に達し、2021年末においても7%を上回る水準に高止まりするとの見通しが示されている。新型コロナウイルスに伴う影響は長期化することが見込まれる中、金融緩和政策が継続される蓋然性が高く、豪金利が軟調地合いとなることが想定される。また、ウィルス関連の政治的リスクに引き続き警戒が必要であろう。中国やWHOのウィルスに対する一連の対応について豪政府が疑義を抱いており、豪中関係の悪化が懸念される。また、米国においてもトランプ大統領から中国に対する強硬姿勢を漂わせるような発言がなされており、米中関係の行方も引き続き市場のセンチメントの重しとなろう。

(3) 先週までの相場の推移

先週(5/18~5/22)の値動き:

(対ドル) 安値 0.6411 高値 0.6616 終値 0.6536

(対円) 安値 68.66 高値 71.09 終値 70.36



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。